J-RAPID 最終ワークショップにてトルコとの共同調査研究成果報告をしました（2024/6/10-11）

テーマ：2023 年カフラマンマラシュ地震、災害緊急調査研究
会　場：ボアジチ大学カンディリ観測・地震研究所（イスタンブール市、トルコ）

2024 年 6 月 10 日（月）～11 日（火）の２日間にわたり、カフラマンマラシュ（トルコ南東部）地震関連「国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID）」の終了ワークショップがボアジチ大学カンディリ観測・地震研究所（Kandilli Observatory and Earthquake Research Institute）にて開催され、当プログラムに採択された合計 10 件※の日本・トルコ共同調査研究課題の成果が報告されました。
※ https://www.jst.go.jp/pr/info/info1635/pdf/info1635.pdf

当研究所からは、「カフラマンマラシュ（トルコ南東部）地震関連のデジタルアーカイブ構築支援と活用」（日本側研究代表者：今村文彦教授（津波工学研究分野））、「カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査」（日本側研究代表者：福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野））の 2 件の課題の報告がありました。当研究所からは、今村教授と福島准教授のほか、保田真理プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が参加しました。

J-RAPID は、自然災害、人的災害など不測の事象が発生した際に、科学技術振興機構（JST）が海外の研究資金配分機関や研究機関と協働で支援して行われる国際共同研究・調査プログラムですが、２国間で何もつながりがないところから緊急的な調査研究が実施できるわけではありません。ワークショップでは、いずれの課題も、トルコと日本の間の何十年にもわたる世代を超えた協力関係や、留学生の受け入れによる交流関係など、両国の研究者の深い友好関係が礎となっていることが共有されました。今後も、災害を課題とする世界の国々の研究者で連携・友好関係を一層深め、世界から災害で苦しむ人々を少しでも減らしていく努力を継続していくことが、災害科学に関わる研究者の責務であるということを再確認する有意義な機会となりました。

ワークショップが行われたカンディリ観測・地震研究所の建物

文責：福島　洋（陸域地震学・火山学研究分野）